

高齢者等新型コロナ予防接種の前に

ご本人またはご家族がお読みください

◎新型コロナ予防接種の効果

予防接種を受けてから効果が現れるまで約 2 週間程度かかり、免疫がついても発症を予防する効果は 100%ではありません。

また、既感染者であっても再感染する可能性はあり、ワクチン接種による発症予防や重症化予防効果が期待されます。

◎予防接種の副反応

新型コロナワクチンの主な副反応として、注射した部分の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛みなどがみられることがあります。できるだけ接種当日・翌日に無理をしないですむように予定を立てておくといでしょう。これらの症状は、たいてい数日以内に軽快することが分かっています。

稀な頻度でアナフィラキシーが発生します。また、頻度としてごく稀ですが、ファイザー社及びモデルナ社のワクチン接種後に、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。ワクチン接種後数日の間に、胸の痛みや息切れなどの症状がみられた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

◎予防接種を受けることができない方

①発熱がある方（37.5 度以上の発熱）

②重篤な急性疾患にかかっている方

※「重篤かつ急性」の病気にかかっている場合、病気の進行状況が不明であり、このような場合は予防接種を行うことができません。

③予防接種の接種液の成分によりアナフィラキシーなど重度の過敏症（全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下など）の既往歴のある方

④その他、接種医師が予防接種を見合わせるべきと判断した方

『アナフィラキシーショック』とは、通常、予防接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

裏面もあります

◎予防接種を受ける際に、主治医と十分な相談が必要な方

- ①心臓、じん臓、肝臓、血液、呼吸器等の基礎疾患にかかっている方
- ②過去に予防接種を受けて、接種後 2 日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ③過去にけいれんを起こしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
- ⑥抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意が必要です。（新型コロナワクチンは筋肉内注射のため）

◎予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後 24 時間は副反応の出現に注意しましょう。
特に、接種直後の 30 分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ②ワクチンを接種した日に入浴することは構いません。体調が悪い時は無理をせず様子を見るようにしましょう。
- ③予防接種後 24 時間は、激しい運動や過度の飲酒などは控えましょう。
- ④接種後、接種部位の異常や体調変化がある場合は、速やかに医師に相談しましょう。
- ⑤新型コロナワクチンは、医師が必要と認めた場合、インフルエンザワクチンなど他のワクチンと同時接種が可能です。また接種間隔に制限はありません。

◎予防接種健康被害救済制度について

新型コロナの予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働省によりワクチンとの因果関係があると認定されると、予防接種法に基づく救済（医療費等の給付）を受けることができます。